さぬきの輪 TIMES 15

さぬきの輪 TIMES 15

目 次

4　現役地域おこし協力隊　投稿記事 特集

さぬき市 地域おこし協力隊
折原 拓人

東かがわ市 地域おこし協力隊
桑田 衣里

三豊市 地域おこし協力隊
竹内 奈央

琴平町 地域おこし協力隊
葉 乃方

8　現役地域おこし協力隊　インタビュー記事

土庄町 地域おこし協力隊
森 亜紀子

10　地域おこし協力隊OBOG　インタビュー記事

三豊市 地域おこし協力隊 OB
小玉 祥平

直島町 地域おこし協力隊 OG
山岸 紗恵

14　フォトコーナー

16　復刻版！行政担当者のホンネ。

小豆島町・三木町・香川県

18　さぬきの輪の活動

19　活動場所

表紙：NAOSHIMA SAILORS CLUB
直島町内で活動をしている山岸さんと子どもたち。（p12）演劇で使用する小道具を制作中の子どもたちの様子です。みんなで相談をしながら、段ボールや絵の具を使って、テレビや冷蔵庫を作っています。

さぬきの輪TIMESは、地域おこし協力隊を中心に香川県内で
地域活性化に取り組む人々を紹介する冊子です。

都会から移り住み、地域おこし活動を行う地域おこし協力隊。
その活動内容は様々ですが、それぞれの得意分野を活かし、地域の方をはじめ、
多くの方々に支えていただきながら、互いに協力し合って活動しています。
香川県の地域おこし協力隊がどのような活動をしているのかを知り、
より身近に感じ、応援していただけたらと思います。
香川暮らしの魅力と共に、彼らの等身大の姿をご覧下さい。

今回のテーマは、
地域の未来のために

今回は、地域の未来のために、日々活動する地域おこし協力隊を紹介します。

東かがわ市 地域おこし協力隊
桑田 衣里 Kuwada Eri

広島県出身。民間企業や福山市の行政関係機関での勤務を経て、2023年6月に文化財及び歴史・民俗等を活かした地域おこしをミッションとする東かがわ市地域おこし協力隊に着任。

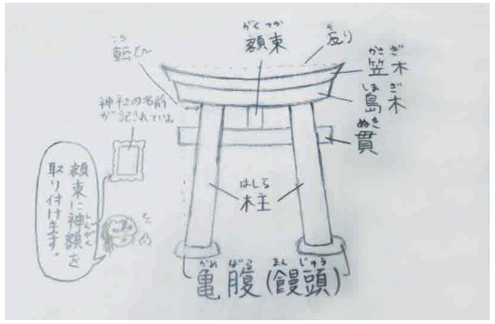
未来に向けての土台作り

協力隊1年目の現在は、市内の歴史が分かる場所へ足を運び、SNSを使用した歴史・文化・伝承などの情報発信活動に力を入れています。ただ、写真を投稿するのではなく、自分なりの解説や図などを加えて発信しています。大内(おおち)、白鳥(しろとり)、引田(ひけた)の3つの町が合併した東かがわ市は、旧町の名残があり、それぞれ文化や伝承の違いがあって面白いです。

他には、小学校の地域学習授業で使用する東かがわ市にちなんだ「かるた」の絵の制作も行っています。絵を描くことが得意なので、それを活かしながら、子どもたちに少しでも地元に興味を持ってもらえるよう、1枚1枚丁寧に制作しています。

今後は、現在行っているSNSでの情報発信を引き続き行う中で、冊子やWEB記事など情報発信の媒体を増やしていきたいです。具体的には、過去にSNSで投稿した神社やお寺について、WEB記事でより詳細に書くことが出来ればと思っています。また、民間企業と連携をし、キャラクターを活用した東かがわ市の文化財のPR活動に力を入れたいと考えています。

これから、2年目の活動に入りますが、自分のやりたいことを大事にしつつ、東かがわ市をより良くするため、未来に向けた土台作りに頑張って取り組みたいです。将来的には、友人たちと起業し、一緒に何かを成し遂げるチームを作っていければと思っています。



SNSで地域の文化財等について解説付きで発信しています

地域学習授業で使用するかるた

さぬき市 地域おこし協力隊
折原 拓人 Orihara Takuto

徳島県出身。大学卒業後、地方証券会社に営業職として勤務。学生時代から活動している弓道では国体選手に選出される。コロナ禍をきっかけに、今後の生き方について考えるようになる。地方が持つ力や魅力、面白い人材を知り、地域に根差した仕事がしたいと思い、約6年間勤めた会社を退職し、徳島で人財育成やまちづくりを行う会社のインターンを経て、2021年7月に地域の魅力発信をミッションとするさぬき市地域おこし協力隊に着任。

住む人が自分の地域を誇りに思えるように

現在はSNS(主にInstagram)を使用した地域の魅力発信を行っています。さぬき市内の文化的・歴史的価値のあるものから、地域の人も知らないようなスポットまで幅広く足を運び、毎日発信を行っています。

また、さぬき市内外のイベントのお手伝いをし、イベント参加者と交流することによって、さぬき市の魅力をリアルな場所でも発信しています。

着任当初、「さぬき市には何もないからね」という声を地域の方から聞くことがよくありました。私は住んでいる人が自分の地域の魅力を知らないと、地域が元気にならないと思っています。そのため、地域の魅力をSNSで発信するだけでなく、実際に地域の方と話す機会を持つことを意識しています。直接伝えることで、さぬき市は魅力に溢れた場所だと気づいていただき、「さぬき市にはなにもない」から「さぬき市は意外といい所だね」と地域の人に思っていただければ良いなと思っています。

さぬき市のイベントの様子

私の協力隊任期は残り少なくなってきましたが、退任後も変わらず地域に根付き、住む人が自分の地域を誇りに思えるよう、取り組んでいきたいと考えています。

新たな取り組みの一つとして、さぬき市津田地区にある一軒家を購入し、地域との交流拠点となるシェアハウスを立ち上げます。

交流拠点となるシェアハウス

短期滞在型ではなく、長期でシェアハウスに滞在して地域と関わり、地域のリアルを体感していただくことで、できる体験記を作ってほしいと考えています。滞在者や地域の双方にとって、新たなアイディアや価値観を知るきっかけを作り、地方の可能性を広げ、さぬき市をその人の故郷と思えるような場所にしていきます。

そうすることで、さぬき市に住む人が自分の地域を誇りに思えるきっかけ作りが出来るのではないかと考えています。

琴平町 地域おこし協力隊

葉 乃方 Ye Naifang

台湾出身、2016年来日。2016年～2023年まで東京の小売り業界で働く。小さい頃から日本のアニメ文化に興味を持ち、大学では日本語を専攻。旅行好きで、47都道府県制覇済み。自然豊かなところに住みたい、昔からの夢である日本と台湾の架け橋になりたいと思い、2023年3月に国際交流推進をミッションとする琴平町地域おこし協力隊に着任。

国際交流で地域おこしの可能性を探る

琴平町の魅力をPRし、移住者や海外からの観光客を呼び込み、地域との交流を深めるため、SNSを使用した情報発信、国際交流、そして地域を盛り上げるためのイベント活動の三つを中心に活動しています。

琴平町の協力隊はフリーミッションのため、自分のやりたいことを提案し、許可がもらえれば企画を実行することができます。これまでの活動では、琴平町と台湾瑞芳（ずいほう）区の中学校の交流、琴平町での台湾料理教室の開催、台湾夜市・台湾フェスティバルの開催や台湾のインフルエンサーによる琴平町の取材誘致などを行ってきました。

台湾のインフルエンサーさんとの写真

新型コロナウイルスが落ち着いてきた中での台湾夜市・台湾フェスティバルは、琴平町と台湾の友好協定をより町民の皆さんに認識してもらうために、同じく琴平町の台湾人の地域おこし協力隊の王隊員と二人で企画・開催したものです。イベントを通じて、台湾の地理、物、踊りを紹介し、

琴平町と瑞芳の中学校の交流会

一緒に太極拳をしたり、台湾グルメを食べてもらったりしました。参加者の皆さんが台湾に興味を持ってくれるようになり、「ぜひ来年もやってほしい」との言葉を頂き、凄くやりがいを感じました。

また、イベント当日は坂出市、善通寺市の地域おこし協力隊の方にもお手伝い頂き、協力隊同士の交流もできて、本当に感謝しています。

国際交流の活動を通じて、地域の皆さんに改めて自分達の琴平町がどのような地域かを知ってもらい、地元への関心や愛着を持ってもらいたいです。そして、友好協定を結んだ台湾の瑞芳区とさらに深く繋がり、台湾にも興味を持っていただけたら良いなと思います。

そのため、協力隊２年目以降は、台湾に関連したイベントと琴平町の魅力をPRするイベントをどんどん企画したいと思います。台湾の写真展、台湾料理の朝ごはん会、中国語プラザー、コスプレ撮影会などの開催を考えています。

三豊市 地域おこし協力隊

竹内 奈央 Takeuchi Nao

東京都から三豊市に移住。これまで、企業の広報やコワーキングスペースでの運営を経験。三豊市のまちづくりへの取り組みや瀬戸内海の多島美や四国八十八ヶ所のある地域に魅力を感じ、移住を決意。2023年4月に、市内の観光振興をミッションとする三豊市地域おこし協力隊に着任。活動と並行し、精神保健や福祉分野の学びも深め、地域での交流に役立てたいと考えている。

「暮らし」に寄り添った情報発信で、新たな「人に会いに行く観光」を実現したい！

協力隊1年目の今年度は粟島芸術家村にて、毎年開催される「粟島アーティスト・イン・レジデンス」でのアーティストの受け入れや、市内の様々な飲食店が出店する「みとよマルシェ」の開催準備など、参加型イベントを行ってきました。また、市内の商業施設内に設置した「地域の方が意見交換できる掲示板」は地域の方が持つ「不安」や「本音」など、貴重な意見を知るツールとなりました。

2年目からは自らが発案・企画した活動の情報発信をもっと行いたいと考えています。私が三豊市に移住して感じた魅力は、美しい景色はもちろん、その景観を守る人の想いや自然と共生している暮らしの多様性です。そうした三豊市を育んできた「人」にフォーカスした、「地域の人に会いに行く観光」を勧められるような仕掛けづくりをしたいと思っています。

まず、検討しているのは、同市内で農林振興をミッションとする協力隊との共同企画で、三豊市の食と仕事をテーマにした「ライフモデル」に着目したパンフレットづくりに取り組むことです。「農林」と「観光」それぞれ別々に活動するのではなく、お互いの専門分野を生かしながら協力し、協力隊だからこそ触れることのできる地域の人の「生の声」を形にしていきたいと考えています。

他には、市内の様々な事業者さんと関わる中で感じた「求人情報」発信に関する問題の解決です。働く方の人柄や、地域や商品に対する想いなどは、非常に表に出にくく、求職者や移住希望者に情報として届いていないと感じています。そこで、大手の就職情報ではカバーしきれない内容やボランティア募集まで、人手不足の解決や関係人口づくりとなる情報発信をしたいと思っています。

将来的には、「観光案内所」ならぬ「人物案内処」として、「全国から人が集まり、地域の人との繋がりが生まれる」交流拠点が三豊市にできたら面白いのではないか、と想像を膨らませています。

粟島での作品案内の様子

イベントにて市内事業者の販売サポートを行う様子

［土庄町 地域おこし協力隊］森 亜紀子 Mori Akiko

PROFILE

広島県出身。
2022年1月に、域学連携交流事業をミッションとする
土庄町地域おこし協力隊に着任。

土庄町はどんなまちですか？

人口は1万2千人で、小豆島にある土庄町には、瀬戸内海の島の中で最も高い山があり、起伏に富んだ、山も海も楽しめるまちです。少し移動するだけで景色が大きく変わるので飽きることがありません。

土庄町に移住したきっかけはなんですか？

移住前は、夫と二人、京都市内を拠点にして暮らしていました。沖縄・ミクロネシアの近現代史に関する研究を専門に、関西にあるいくつかの大学で非常勤講師や研究員として働いていましたが、このまま京都に住み続けることは、二人の理想の暮らしではないと思い、瀬戸内エリアで落ち着いて暮らせる場所を探すことになりました。そんな時、土庄町の空き家バンクで理想の古民家を見つけて購入したことがきっかけで、一年半の準備期間を経て小豆島に移住することになりました。移住する1ケ月前、土庄町で域学連携・移住定住促進担当の地域おこし協力隊を募集していることを知り、域学連携であれば大学で非常勤講師・研究員をしてきた経験を活かせ、ライフワークとして続けてきた研究と生活を両立できそうだと思い応募しました。着任前に参加した土庄町地域おこし協力隊オンライン説明会での職員さんの対応が好印象だったことも決め手になりました。

域学連携交流施設 ～夢すび館～

現在はどのような活動をされていますか？

移住体験施設も併設した「夢すび館」を拠点に、大学の授業の一環として行われるフィールドワークやインターンシップ、卒論調査などのサポートを行っています。小豆島について知りたい、学びたいという大学生を受け入れ、地域の魅力掘り起こしや課題解決に向けた取り組みを行っています。地元大学と連携したサテライトセミナーの開催や、先生方の研究成果を地域に還元し、活かす取り組みも行っています。

香大生と残石記念公園の商品開発をした時の様子

近年、大学教育において、現場で学ぶ学外でのフィールドワークを取り入れることがトレンドになっており、多くの大学がフィールドワーク先を探しています。土庄町は7つの地区からできていますが、大学が土庄町をフィールドワークの地として表明をした段階では具体的な調査は決まっていないことがほとんどです。小豆島のどの部分に興味があり学びたいのか、大学の学部や学年も考慮しながら授業に落とし込み、土庄町の7つの地区と大学、それぞれの接点を探してマッチングしていくことが私の仕事です。

神戸学院大学との災害調査

土庄町の7つの地区と大学をマッチングします

例えば、昨年は、昭和51年に大災害があった大部（おおべ）地区と、阪神淡路大震災の経験を学んでいた神戸の大学をマッチングしてフィールドワークを行いました。

大学生と一緒に地域を知ることで、継承されていなかった地域の大切な記憶、課題や魅力を考えていこうという雰囲気が地域の中に生まれたらいいなと思っています。私が学生時代にいろんな人を訪ねて調査した経験や、授業を作って学生に伝えてきた経験、研究者としての考え方など、全てが協力隊の活動として活かせていると実感しています。

今後の土庄町の未来がどのようになれば良いと考えていますか？

今後は旧土庄高校跡地の「とのたる館」の3Fをサテライトキャンパス、コワーキング・スペースとして活用する予定です。この場所を軸に、住民の人向けのワークショップや講座、みんなが集まってなにがしか学べる仕組みを作りたいです。島外から来る人も、観光だけではなく、小豆島を学びたい人はいると思っています。人や地域の良いところを引き出しながら、変化のキッカケを作ることが私の得意分野なので、二つの施設を上手く使いながら、小豆島に訪れる人と、住民との出会いを作り、化学変化を起こせたらと思っています。後は、私が暮らす小豆島北部で、築100年の古民家で集落暮らしを楽しむための拠点を作ります。田井集落の「たい」と、〝遊びたい、学びたい、住みたい〟、小豆島の移住支援拠点「トティエ（totie）」の〝結ぶ（tie）〟の意味をかけあわせて「たいハウス」と名づけました。今ある環境を維持しながら、安心して暮らし続けられる場所づくりを楽しみながら作りたいと思います。

とのしょうキャンパスHP
https://tonosho-campus.net/
※とのしょうキャンパスのInstagram、Facebookもあります!

土庄町地域おこし協力隊 Instagram
https://www.instagram.com/tonosho_tiikiokoshi/

土庄町地域おこし協力隊 Facebook
https://www.facebook.com/tonosho.kyoryokutai/

絆をつなぐ

地域おこし協力隊 OBOGを訪ねて

香川県三豊市

小玉 祥平さん

Kodama Syohei

PROFILE

東京都三鷹市出身。
2019年4月～2022年3月まで探究学習・協調学習の公教育現場への実装や、学校ICT環境・教育データ分析環境の整備などをミッションとする三豊市地域おこし協力隊として活動。
現在は三豊市教育委員会センター長として任期時の活動を継続中。

Facebook https://www.facebook.com/sh.kodama
Instagram https://www.instagram.com/shoheykodama/

三豊市はどんなまちですか？

海の魅力・山の魅力・野の魅力すべてが詰まったまちです。また、魅力的な人材の宝庫で、自らの手で地域づくりに取り組んでいる担い手が幅広い年代にたくさんいます。近年は地域の移住希望者も加速して増えており、私が目指している教育の上でも大きな役割を担ってくれる人材がたくさんいる場所です。

三豊市に移住したきっかけはなんですか？

大学時代からプログラミングやＩＴについて興味があり、大学卒業後はＩＴ関係に就職をしました。しかしながら、それが本当に自分のやりたいことなのかを考え直す機会があり、もともと勉強をすることが好きで、教育の分野に関心があったことから、副業として国語のワークショップの受託や教材のインターネット販売などを始めました。

その頃、三豊市教育委員会から、中学生向け国語ワークショップの依頼を頂き、三豊市に初めて訪れました。そのことがきっかけで、地域おこし協力隊として引き続き三豊市の教育に携わることになり移住しました。

探求授業に取り組んでいる中学生たち

協力隊卒業後はどのような活動をされていますか？

卒業後も同じ教育委員会の中で探究学習・言語教育・学校ＤＸ等の推進を図る仕事をしています。それに加えて、最近は部活動の改革も行っています。具体的には、中高生を対象とした「みとよ探究部」や、「メタバース部」という探究学習を実践する新しい部活動を作ったり、国語や数学などの従来の学びをより豊かに、効率的にするためのデジタル教材の導入などを行っています。そのために基礎的な学びはデジタル教材の活用やデータ分析を取り入れながら効率的に行うことが必要だと考えています。そうすることで、〝その地域にしかない教育〟をつくり、それを子どもたちが地域をまたいで享受できる仕組みができると思っています。

〝その地域にしかない教育〟とは、そのまちにいる人々や存在するモノ、自然環境と混ざり合いながら学ぶことです。例えば、同じ地域課題でも、地域によって課題への向き合い方、その地域の人々がどのように関わり、解決しているかによって結果は様々です。そういった地域個々の部分に一番こだわって取り組んでいます。

幸い三豊市には様々な活動をしている地域の大人がいて、皆さん協力的なので、教育上大変助かっています。

実際に、地域の大人と中高生が接点を持つことで、自分のやりたいことをどんどん発信していこうとしている子どもたちが増えたと思います。探究部に限らず学校の授業に入っても、自分の考えを表現する能力や姿勢がついたと実感しています。

また、「メタバース部」は、完全オンラインによる、学校の枠を超えた広域的な部活動形態が特徴で、市の部活動改革のひとつに位置付けられています。従来の部活は、完全に学校の中のコミュニティと一体化しており、それが良い面も悪い面もあります。「メタバース部」のような新しい部活動ができ、既存の部活動が学校の枠をこえることにより、子どもたちのコミュニティが多様化していきます。学校や家庭以外の第３の居場所ができることにより、学びの選択肢もどんどん広がっていくと思っています。学校の中に友達はいないけれど、他校に行けば気の合う友達が見つかることもあります。〝好き〟なもので繋がることもあるので、オンラインを使った新しい部活動は、不登校の子どもたちも参加しやすくなると考えています。

みとよ探求部の仲間たち

三豊市の教育の未来がどのようになれば良いと考えていますか？

これからは、生き方やキャリアパス、仕事の仕方が多様化していくので、教育もそれに対応していかなければならないと思っています。あらゆるものを標準化するというよりも、地域ならではの様々なモノやコトをどのように行き来させて人の交流を起こすのか、その場所でしか学べないものに対して自分なりに意味を見出していく教育が重要になってきます。

自分にとって大切なのは〝これだ！〟と判断できることが大切ですし、学びを通してその力を培ってもらえるような環境をこれからも作っていきたいです。

小玉さんのお気に入り

三豊市は、父母ヶ浜などの観光地を中心に、ゲストハウスや飲食店などが増えています。三豊市は魅力的な大人たちがたくさんいる地域です。
特に、ハレとケ珈琲（https://www.instagram.com/haretoke.nio/）や、カフェ･ド･フロ（https://nami53.wixsite.com/flots）がお気に入りです。
ハレとケ珈琲では、その日の気分にピッタリ合ったコーヒーを味わうことができます。
カフェ･ド･フロには訪れた人々と、地域を繋ぐ水先案内人的な人物がいて、地域を盛り上げてくれています。

絆をつなぐ

地域おこし協力隊OBOGを訪ねて

直島町

山岸 紗恵さん

Yamagishi Sae

PROFILE

茨城県出身。
2014年5月～2017年3月まで空き家、空き地の調査、移住定住希望者向けの情報サイトの企画運営、及び空き家バンクの運営、移住者等の取材を通した広報をミッションとする直島町地域おこし協力隊として活動。
現在は一般社団法人キッズポートの代表理事として、子育て・教育を通したまちづくりをしている。

NAOSHIMA SAILORS CLUB(Instagram QRコード左)
https://www.instagram.com/naoshima_sailors_club/
なおしまキッズポート(Instagram QRコード右)
https://www.instagram.com/naoshima_kidsport/

NAOSHIMA SAILORS CLUBの外観

直島町はどんなまちですか？

瀬戸内海の小さな離島で、人の行き来を自然に受け入れてくれる素地のある人々が多く、製錬所やアート施設で働く人、漁業に携わる人、観光客など、様々な人が往来しています。インフラも整っており暮らしやすい町です。

アート施設ができる以前から、映画の上映会や文化活動が活発で、文化的な要素が昔から根付いていると聞いています。

直島町に移住したきっかけはなんですか？

東日本大震災の翌年に出産をしたのですが、少し先に東京で子育てをしている同世代の友人たちが、保育園探しや、雑踏の中でベビーカーを押す姿を見て、東京ではのびのびした、自分らしい子育てをすることが難しいと思い、地方への移住を選択しました。

直島町を選んだ理由は、インフラがある程度整っており、自分らしい暮らしや仕事ができそうだと思ったからです。とはいえ、私たちが移住しようと思った当時は移住の問い合わせ窓口がなく、家探しにも大変困りました。その実体験がきっかけで、移住者を受け入れるインフラ整備を

ミッションとして協力隊になり活動を始めました。

協力隊卒業後はどのような活動をされていますか？

困りごとを共有した仲間と、一般社団法人キッズポートを立ち上げ、子育て・教育を通したまちづくりをしています。

具体的には、子育て支援拠点「なおしまキッズポート」と、子ども第三の居場所事業である「NAOSHIMA SAILORS CLUB（ナオシマセイラーズクラブ）」の運営を行っています。

「なおしまキッズポート」は、安心して帰ることのできる〝母港〟というコンセプトで「キッズポート」と名付けました。妊婦さんから未就学児のいる親子が交流したり、遊んだりできる場所にしています。

設立のきっかけは、保護者同士で情報共有する機会や相談できる友人ができずに直島から転出する家族を何組も見送ったことでした。

キッズポートでは、子どもたちが安心して遊べる環境作りをしています。自由に工作をしたり、興味関心を見つけやすい玩具を設置したりと、自然に想像力が育めるように工夫しています。

保護者同士の交流や、相談相手がいない時などに気軽にスタッフに相談できるような体制作りもしており、安心して過ごせる場所にしています。

「NAOSHIMA SAILORS CLUB（ナオシマセイラーズクラブ）」は、子ども第三の居場所事業であり、島の放課後児童クラブの役割を担っています。〝セイラーズ〟は、「子どもたちがそれぞれ自分で船を漕ぎ出す」というコンセプトで名付け、日本財団からの助成金を受けて誕生しました。従来の放課後児童クラブにはない、体験機会を創出しています。

土曜日の預かり保育に加え、月に一回の調理実習や、演劇、環境学習、英会話、オンライン工場見学、宿泊学習なども行っており、島にいながら子どもたちが様々な経験ができるように工夫しています。カリキュラムはスタッフでアイデアを出し合って作成しています。特に、夏休みにはさまざまな体験活動を実施しますが、昨夏、子どもたち自身で話し合い、出し物を決めて開催した夏まつりはとても盛り上がりました！異なる学年の子どもたちが、協力して自分たちの力で作品を作り上げることができました。

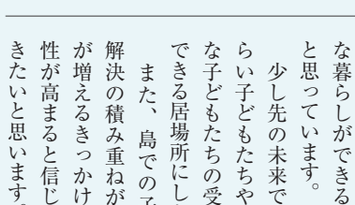
今までは外部向けの島内の子育て情報がほとんどなかったので、両施設で子育て中の移住希望者の相談にも対応しています。移住したばかりの方が相談に来ることもあり、学校のことや、こども園のこと、子育てのことなど、実際の経験をお話ししています。

直島で育った子どもたちが、安心して戻ってこられる〝港〟がある事で、それぞれの行きたい未来へ自信をもって〝漕ぎ出す〟場所になることを願いながら日々携わっています。

なおしまキッズポートの工作棚

Baiten by NAOSHIMA SAILORS CLUB

NAOSHIMA SAILORS CLUB内に併設されている「米粉と大豆粉を使った焼きドーナツ」が食べられるカフェです。ドーナツは乳卵不使用のグルテンフリーのドーナツで、店内で丁寧に作っています。コーヒーやオーガニックジュースなどもあります。おむつ替えシートや、車いすトイレの設備もあり、みんなに優しいカフェです。Wi-Fiも完備しているので、ワーケーションにも最適です。



子どもたちの日々をつづった“セーラーズ日記”

直島町の未来をどのように考えていますか？

自分自身が、我が子の乳幼児期の子育てで感じた課題感から、活動が始まり、現在も当事者として日々考えながら生活しています。これからも、子育て当事者の皆さんはもちろん、教育機関や地域の方々と共に活動し、直島が子育てを通じてより豊かな暮らしができる島になればよいなと思っています。

少し先の未来では、学校に行きづらい子どもたちや、特性のある多様な子どもたちの受け入れが専門的にできる居場所にしたいです。

また、島での子育て環境の課題解決の積み重ねが、移住者・定住者が増えるきっかけとなり、町の持続性が高まると信じて活動を続けていきたいと思います。

綾川町

視察を通じた他県の
隊員との交流

門松づくり

役所

100歳体操

地域の方々で話す様子

坂出市

たくさんの人たちと出会いました。

香川県

第50回さぬきの輪の集い

第51回さぬきの輪の集い

直島町

餅つき大会

小豆島

フォトコーナー

土庄町

シャボン玉交流会

東かがわ市

手袋屋さん

小豆島町

左上から／宮川さん、片岡さん、下本さん、岡田さん、
寳田さん、八木さん、仲さん
左下から／河野さん、中武さん

❶協力隊がいろいろな提案をしてくれるのですが、行政側の制約で活動に制限がかかってしまうことがあります。協力隊の円滑な活動を実現するため、地元、行政、協力隊間の調整が必要であり大変だと感じています。外部に出向している協力隊もいますので、日々のコミュニケーションを取るのが大変だと感じています。
❷各課で定期的に活動状況を共有する機会を持って、コミュニケーションを図っています。協力隊同士もコミュニティを作っていて、日々の細かな情報共有を行ってくれています。
❸ミッションが具体化されている採用を行ったことで、専門性の高いスキルを持った協力隊が多く、即戦力として活躍していただいています。協力隊からの提案、具体的な助言や説明が聞けるので良かったです。
❹いろいろありますが、それぞれの協力隊が専門性を持って貢献してくれているので本当に感謝しています！協力隊は、島の人よりも島に詳しく、それぞれが島の暮らしを楽しんでいると感心しています。これからも更に魅力ある島にして、住み続けられる環境づくりをしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします！

小豆島町の地域おこし協力隊…
吉川隊員、高谷隊員、小木曽隊員、加藤隊員、
本田隊員、白沢隊員、長棟隊員、松田隊員、
大須賀隊員、浦隊員、山本隊員、細見隊員、
佐々木隊員

復刻版！

行政担当者のホンネ。

協力隊と二人三脚で地域を盛り上げる

日頃からお互いに協力をし合いながら地域活動に向き合っている行政職員と地域おこし協力隊ですが、なかなかホンネが言えないことも。今回は、さぬきの輪TIMES5号で特集した「行政担当者のホンネ。」の復刻版として、普段あまり表に出ない行政職員にスポットをあて、あれこれ質問をしてみました！

質問

❶地域おこし協力隊の担当者として大変なことはありますか？
❷①に対してどのように対応しようと日々取り組んでいらっしゃいますか？
❸協力隊を導入して良かったと思うことはありますか？
❹最後に一言お願いします！

香川県

左上から／大野さん、磯道さん、高橋さん、中根さん、林さん、大久保さん、
尾崎さん、常金さん、島倉さん
左下から／秦野さん、臼山さん、滝本さん、佐々木さん、濱岡さん

❶協力隊活動を全県的に進める中で、県として求められる役割が果たせるように調整やマネジメントをすることが大変です。
❷県の協力隊と定期的にミーティングを行い、協力隊の主体性を持っていただきながら、情報共有や進捗管理等を行っています。
❸各地域で活動する市町の協力隊や職員との距離が近く感じられることです。
❹協力隊・行政職員関係なく、地域を面白くしたい同志で、今後も香川県を盛り上げていきましょう！

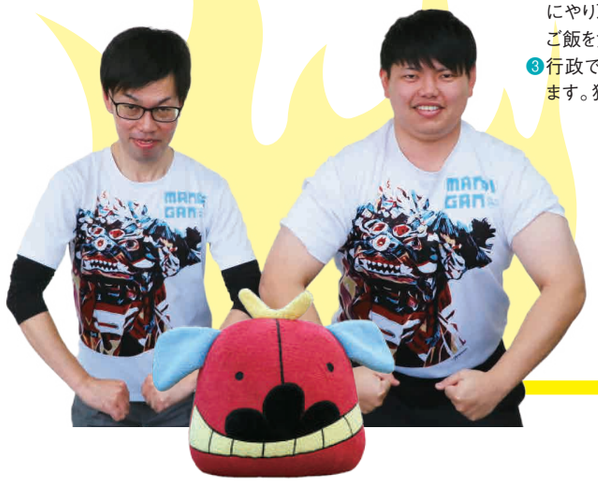
香川県の
地域おこし協力隊…
香川隊員、藤田隊員

三木町

左から／村尾さん、俵さん　中／獅子家の舞ちゃん

❶日々のたわいない会話の中から協力隊の考えを聴くことで、個性を尊重しながら、取り組みたい活動が実現できるように尽力していますが、予算等の関係上、実現が難しいこともあり調整作業が大変です。
❷日々の業務では、行政の事情を詳しく説明し、一緒に行動を共にしながら協力隊の考えに耳を傾けて、協力隊のスキルをどのように活かせるか考えています。一緒に参加するイベントも多いので、こまめにやり取りをして積極的に距離を縮めています。退勤後も一緒にご飯を食べに行ったり、日々のやり取りを欠かさず行っています。
❸行政ではない視点からのアドバイスや行動が大変役に立っています。独創的なアイデアや発想力があり、三木町の新しい地域活性化につながっていて、応募してくれてよかったなと思っています。私たちも業務の取り組み方について日々勉強させてもらっています！
❹型にはまった仕事ではなく、柔軟に地域のために活動していることに日々感心しています。うまくいかないことも多々あると思いますが、何事にも全力でトライしてください！今しかできないことを楽しみながらチャレンジし続けてください。

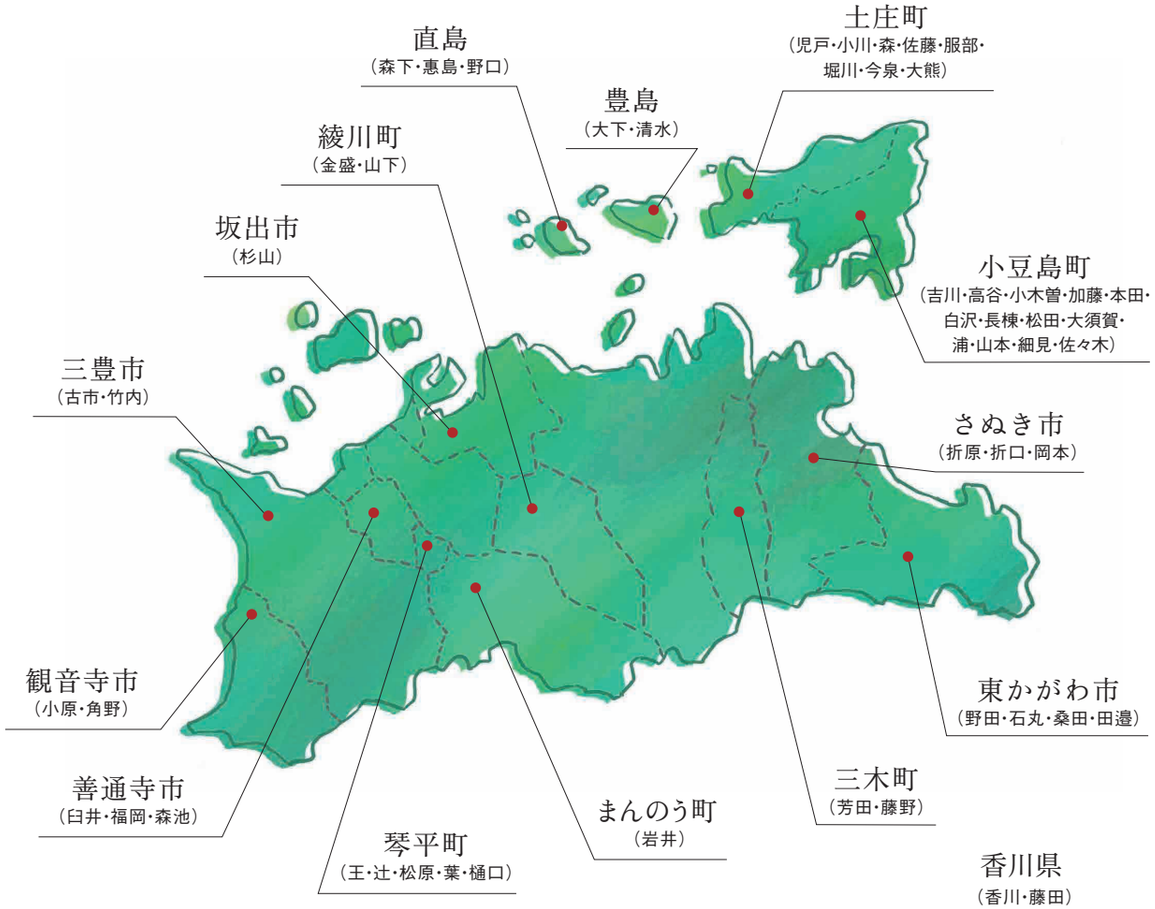
三木町の地域おこし協力隊…
芳田隊員、藤野隊員



KATSUDOU-MAP

地域おこし協力隊員の活動場所

※令和6年1月1日現在



あとがき

今回は、「地域の未来のために」をテーマに、協力隊員等を紹介しました。また、今回新しく隊員自身に記事を書いてもらう投稿記事ページを設け、より各隊員の色が出るようにしました。さぬきの輪TIMESを通じて、各隊員の活動や想いを知っていただけたら嬉しいです。
取材にご協力いただいた皆様、写真撮影・執筆・デザイン等にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

さぬきの輪の活動

香川県では、活動報告会や研修、交流会などを通じて協力隊員同士や行政担当者、
協力隊のOB・OGとのネットワーク形成を図っています。

活動地域から学ぶ

さぬきの輪の集い

自らの活動地域を超え、定期的に県内各地の視察や研修を行う「さぬきの輪の集い」。現役隊員が活躍する場所を訪ね、活動内容を学び、意見交換を行い、自治体担当者も交えて様々な活動のヒントを互いに共有し合います。

先輩から学ぶ

OB・OGとのつながり

香川県内でも増えてきた協力隊OB・OG。任期後も今まで築いてきたネットワークを活かせるよう新旧協力隊の輪を広げています。頼りになる先輩方とのつながりを大切にしています。

情報発信

県内協力隊員の活動を冊子やWebなどで積極的に情報発信しています。

その他の取組み

他県の協力隊やネットワーク組織と連携を図り、情報交換を行っています。

さぬきの輪

#地域おこし協力隊 募集情報も掲載!

地域おこし協力隊
ポータルサイト

香川県の地域おこし協力隊情報はコチラ

香川県に移住をお考えの皆さまに

トカイナカがわ!
TOKAI×INAKA KAGAWA LIFE

ローカルライフを始めたい!

かがわ移住ポータルサイト
かがわ暮(ぐ)らし

移住フェアなどの情報をGET!

香川県の地域おこし協力隊が
紹介したい香川県のモノ・コト

さぬきひめ

香川県では、いちごの栽培が盛んです。特に女峰は、赤色が鮮やかで形も良く、ケーキやスイーツなどでも人気の品種で、実は全国の女峰の約90パーセントが香川県で生産されています。

いちご栽培が盛んな香川県ですが、長くオリジナル品種が存在しませんでした。

そんな中、満を持して2005年、香川県農業試験場が「優れた食味」「大きい果実」「高設式養液栽培に適応」をキーワードにオリジナル品種を開発、育成。

さぬき生まれの上品でかわいいいちご。

たくさんの人に可愛がってもらいたいとの思いを込めて「さぬきひめ」と名付けられました。

香川県 地域おこし協力隊
絵・文：香川 希

さぬきの輪 TIMES 15
2024年3月発行

発行 ： 香川県 地域おこし協力隊
お問い合わせ先 ： 香川県政策部地域活力推進課

〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号
TEL：087-832-3105 FAX：087-831-1165 MAIL：chiiki@pref.kagawa.lg.jp